

**久井町立小学校の適正規模
適正配置及び跡地利用について**

(答申)

平成14年2月

久井町立小学校適正配置検討委員会

平成14年2月6日

久井町長 門田隆博 様

久井町立小学校適正配置検討委員会

委員長 上野敏廣

平成13年6月11日付けで諮問のあった「久井町立小学校の適正規模・適正配置及び跡地利用について」の件について審議した結果、つぎのとおり答申する。

久井町立小学校4校を別記の理由により、1校に統合することを適当とする。

目 次

はじめに	1
1. 理念	2
2. 提言	2
3. 検討の概要	4
おわりに	6
関係資料	7
(1) 委員会開催の記録	7
(2) 児童数の推移・予測	8
(3) アンケート結果概要	9
(4) 各小学校の概要（面積、収容人数、その他）	12
(5) 委員会名簿	13
(6) 委員会設置要綱	14

はじめに

久井村、羽和泉村、坂井原村の三村が合併し、久井町となった昭和29年に久井小学校、羽和泉小学校、中野小学校、坂井原小学校の4校が開設され、現在に至っている。近年の少子高齢化の進行に伴い中野小学校及び坂井原小学校は一部複式学級となっており、今後さらに児童数の減少が見込まれている。また、平成12年4月には保育所を5所から2所に統合したところである。

このような背景から、平成12年度に久井町における小学校の適正配置に関するアンケート調査(一般町民向けと児童・生徒向けの2種類)を実施した。さらに、平成13年度には「久井町立小学校適正配置検討委員会」を設置し、アンケート調査結果等を踏まえ審議を重ねてきたところである。

本答申は、同委員会の委員が5回にわたり、慎重かつ精力的に審議し、21世紀を担う本町の子どもたちが充実した義務教育を受けられることを願って取りまとめたものである。

町当局においては本答申を尊重し、小学校1校統合を行うことに伴って生ずる諸問題も十分にふまえ、その実現に向け速やかかつ適切に対処されることを強く期待するものである。

1. 理念

国際化が一層進展する中、他人の痛みや異文化を理解できる心を養うことが一段と重要になっている。このような中、21世紀の学校教育を展望すると、集団生活を営む中で互いに切磋琢磨し、子ども一人ひとりがお互いを思いやり、また自ら学び自ら考える力を獲得することが大切である。そして、将来久井町の子どもたちが、久井町で育ったことに誇りと感謝の気持ちを抱くことができるよう、学校と地域が協力して個性的で魅力的な教育環境づくりを推進することが望まれる。

このため、

- ① 久井町の子どもたちみんなが切磋琢磨できる教育環境
- ② 地域社会と密着した地域一貫教育
- ③ 楽しく安心して学ぶことができる教育環境

の実現を期待するものである。

2. 提言

(1) 適正な規模

1学年の児童数は20人から30人が望ましい。

(2) 適正な配置

町内1校とし、配置については通学距離及び久井中学校との連携に十分配慮すべきである。

(3) 統合の時期

すでに中野小学校、坂井原小学校の2校が複式学級となっており、今後更に複式化が進むと予想されることから早急に統合を実施すべきである。遅くとも市町村合併までの統合が望ましい。

(4) 跡地利用

廃校となる小学校についての活用策については、地域と協力し、久井町が責任を持って対処すべきである。

(5) 統合までの複式学級対策

1校統合するまでは、加配教諭の配置など適切な対応をし、保護者の不安を解消すべきである。

(6) その他配慮すべき事項

統合に伴い、遠距離通学となる児童に対しては、スクールバスの導入や高学年においては自転車通学の許可など、児童の通学環境向上のために柔軟に対応すべきである。

3. 検討の概要

(1) 適正な規模

適正な規模については、委員全員が1クラスの児童数は20人～30人が望ましいという意見だったが、1校2クラス制と2校1クラス制とに意見が分かれた。しかし、児童数の減少傾向が見込まれること、このため再統合が懸念され、1校とすべきという意見に集約された。

(2) 適正な配置

1校に統合した場合、既存校の収容力及び場所的な偏在から、ほとんどの委員が新設すべきという意見であった。新設となると財政負担等の面から早急な対応ができないことが懸念されるとの意見もあり、早期実現という条件付きで1校統合に賛成した委員もいた。

場所については、町の中心部で通学条件、教育環境として優れていること、小中が連携した教育が可能であることから、委員全員が中学校近辺、役場近辺、B&G海洋センター近辺が望ましいという意見であった。

(3) 統合の時期

統合の時期は、全委員が異口同音に早急に行うべきとの意見であり、じっくり時間をかけて議論すべきとする意見は皆無であった。新設の場合、用地取得、建設等に数年を要することが予想されることから、可能な限り早期に取り掛かり、遅くとも市町村合併が見込まれる平成17年

4月を目途に開校すべきという意見が大多数であった。

(4) 跡地利用について

廃校となる小学校については、地域で管理することは難しいとする意見が多く、町が管理をして地域の文化拠点等として生き続けることができる利用を図ることが望ましいと考えられる。

委員の意見として、地区公民館、体験学習の場、生涯学習の場、産業・営農会館、作品展示場、子どもの遊び場が例示された。

なお、屋内運動場とグラウンドは現行どおり地域に開放することが望ましい。

(5) 統合までの複式学級対策

段階的統合は、児童保護者に与える影響が大きく望ましくない。複式学級に対して教員を加配すること等により、保護者の不安を解消すべきとの意見が大多数だった。

(6) その他配慮すべき事項

統合に伴い、3～4km以上の通学距離を強いられる児童の増加が見込まれ、この対策としてスクールバスの導入が必要とする意見が大多数であった。その際、高学年児童については自転車通学を許可するなど柔軟な対応を図るべきとの意見があった。

おわりに

本答申は、久井町立小学校の適正規模・適正配置及び跡地利用について、5回に及ぶ審議を慎重かつ精力的に行った結果を集約したものである。

保護者、とりわけ複式学級を有する小規模校の保護者は、自ら「保護者アンケート」を実施するなど、大変なご苦勞をされたことを付け加えておく。

この答申を実現するにあたって、町長、教育長をはじめ行政関係者が、21世紀を担う久井町の子どもたちがより良い環境で教育を受ける権利を有することを十分理解され、的確な展望を持ち、学校関係者や地域、保護者等の方々の理解と協力を得ながら、速やかかつ適切に対処されることを切望するものである。

関係資料

(1) 委員会開催の記録

回	開催日	開催場所	主な内容/経緯
1	平成 13 年 6 月 11 日	久井町就業構造改善センター	平成 12 年度に実施したアンケート結果に基づく適正配置の素案を提示し審議した。 また、委員会のスケジュール、視察先等について審議した。
2	平成 13 年 7 月 24 日	豊栄町総合文化センター 大朝町教育委員会	先進地の視察として、豊栄町教育委員会及び大朝町教育委員会を訪問した。 豊栄町では、6 校を 1 校に統合した経緯等について説明を受け、統合小学校である豊栄小学校を視察した。 大朝町では、主として廃校利用について説明を受け、芸術村及び温泉施設として活用されている跡地を視察した。
3	平成 13 年 8 月 23 日	久井町就業構造改善センター	先進地視察の感想及び久井町における適正規模について審議した。 適正規模については、1 クラス 20 人～30 人に集約された。1 校 2 クラス制と 2 校 1 クラス制との意見があった。
4	平成 13 年 10 月 26 日	久井町就業構造改善センター	適正規模及び適正配置について審議した。 規模については、1 クラス 20 人～30 人に集約されたが、1 校 2 クラス制と 2 校 1 クラス制との意見が分かれた。理想として 1 校新設とする意見が多かった。 配置については、中学校等との一貫教育に配慮すべきとの意見が多く出された。 また、中野小 P T A により実施されたアンケート結果の紹介が行われた。
5	平成 13 年 11 月 30 日	久井町就業構造改善センター	適正配置、統合の時期、1 校新設の場合の場所、遠距離通学対策、段階的統合の必要性、跡地利用について審議した。 新設 1 校に集約された。統合の時期は市町村合併までに、場所は中学校近辺、役場近辺、B & G 海洋センター近辺に。遠距離対策はスクールバスなど柔軟に。跡地利用は地域の人と協力して町の責任において対処。段階的統合は、1 校統合を早期に実施する前提で不要とする意見に集約された。 また、坂井原小 P T A により実施されたアンケート結果の紹介が行われた。

(2) 児童数の推移・予測

久井町立小学校児童数・学級数予定

(平成13年10月1日調)

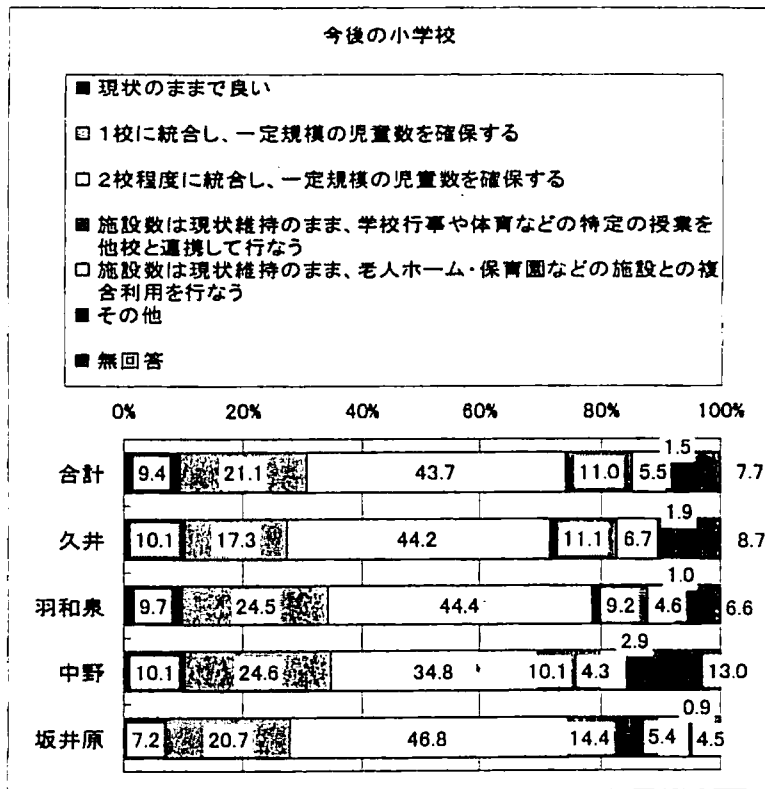
	平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
久井小	106	6	104	6	93	6	92	6	95	6
羽和泉小	90	6	84	6	78	6	73	6	67	6
中野小	37	4	35	4	36	4	30	3	24	3
坂井原小	34	4	35	4	37	4	41	4	42	4
1校統合小	267	11	258	10	244	9	236	8	228	7

(3) アンケート結果概要

小学校数について

問10 久井町全体の小学校を今後どのようにするのが望ましいと思いますか。

- ・ 問10 をみると、今後の小学校については、「2校程度に統合し、一定規模の児童数を確保する。(43.7%)」、「1校程度に統合し、一定規模の児童数を確保する。(21.1%)」の順で回答率が高くなっており、統合を希望する回答が大半を占めています。地区別にも、あまり差異はありません。
- ・ 町民アンケートの問10 について、年齢別の回答をみると、30～39歳で「現状のままで良い」を回答した方の割合が高くなっています。(21.3%)



小学校のアンケート結果

問 何校の小学校に統合すべきと、お考えですか。

- ①新築や増築して1校に統合し1学年2クラスにする
- ②先ず既存の2校に統合したほうが良い
- ③先ず既存の3校に統合したほうが良い
- ④統合するならどの案でも良い

中野小

坂井原小

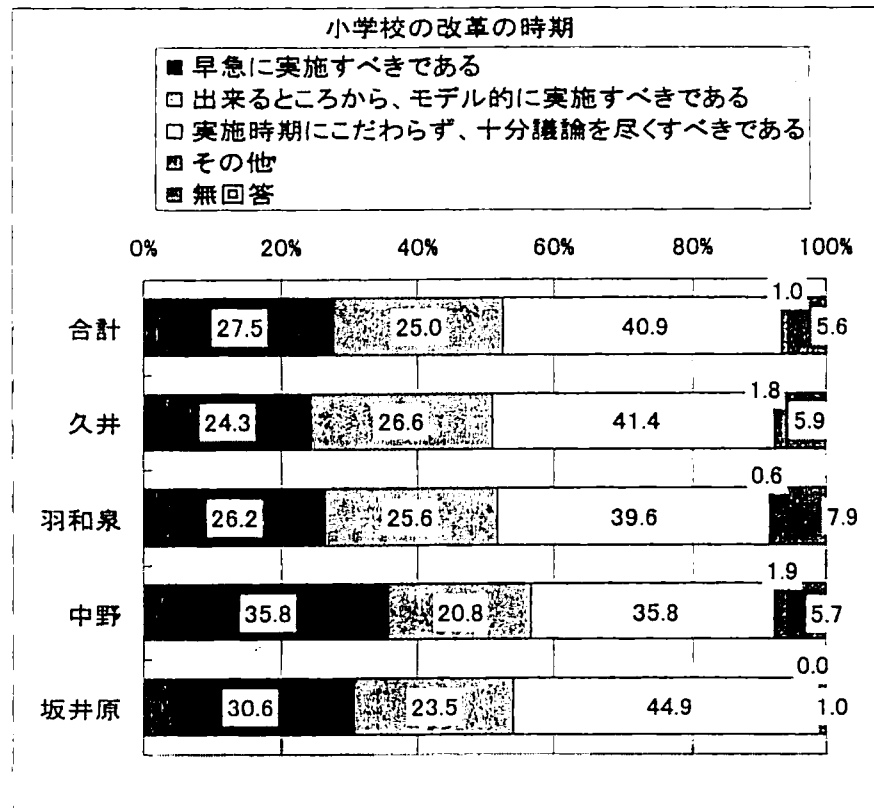
14%
42%
28%
17%

27%
68%
5%
—

改革の実施時期について

問11 小学校の統合を、いつごろ行うのが望ましいと思いますか。

- ・問11をみると、小学校の改革については、「実施時期にこだわらず、十分議論を尽くすべきである。(40.9%)」が最も多く、2番目に回答率の高い「早急に実施すべきである。(27.5%)」を13.4ポイント上回っています。ただし、小規模校である坂井原や中野では、「早急に実施すべきである。」の回答率が比較的高く、実施の早急性が高いといえます。
- ・町民アンケートの問11について、年齢別の回答をみますと、30～39歳で「出来るところから、モデル的に実施すべきである」を回答した方が50.0%います。また、50代・60代で「早急に実施すべきである」の回答率が比較的高くなっています。



小学校アンケート結果

問	小学校を統合する時期はいつ頃が適当とお考えですか。	中野小	坂井原小
①	早急にしてもらいたい(1年後からでも)	17%	50%
②	2～3年後	25%	9%
③	市町合併時(4年後)	28%	28%
④	4～5年後	7%	18%
⑤	5年後	10%	0%

理想とする児童数（1学年）について

問5（2） 小学校の児童数は、1学年何人位が望ましいと思いますか。

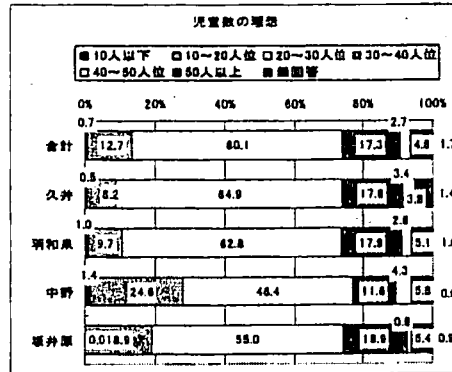
・町民アンケートの問5（2）をみると、1学年における理想とする児童数は、「20～30人位」と回答した方が60.1%と最も多くなっています。この傾向は、現状で児童数の多い地区ほど顕著に表れています。

（参考）1学年当りの児童数（人/学年）

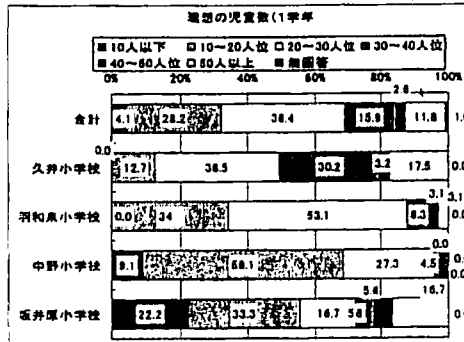
久井	羽和泉	中野	坂井原	
21.8	15.3	7.6	6.5	H12.5.1 現在

・小中学生アンケートの問5（3）をみると、理想の児童数については、全体では「20～30人位」を回答した児童が最も多くなっています（36.4%）。ただし、小学校別にみますと回答にばらつきがあり、久井小は「30～40人位」を回答した児童が比較的多く（15.9%）、坂井原小では「10人以下」を回答した児童が多いという結果になっています。これらは、現在の児童数が回答内容に影響をあたえているのだと思われます。

大人



児童生徒



小学校のアンケート結果

問 あなたの子どもさんのクラスが複式学級だとしたら、どう思われますか。

①歓迎する(プラス思考)	中野小 0%	坂井原小 0%
②いやとは思わない(ややプラス思考)	20%	9%
③いやではあるが仕方が無い	66%	68%
④他校と統合してでも複式は避けたい	14%	23%

(4) 各小学校の概要 (面積、収容人数、その他)

小学校の比較

平成13年6月調べ

	久井小	羽和泉小	中野小	坂井原小
普通教室	7 室	7 室	6 室	6 室
教室面積	61.6 m ²	63 m ²	49 m ²	51.8 m ²
収容人数	33 人	34 人	26 人	28 人
校舎面積	1671 m ²	1762 m ²	1128 m ²	1252 m ²
屋内運動場	798 m ²	797 m ²	653 m ²	710 m ²
運動場	3982 m ²	8555 m ²	2716 m ²	4898 m ²
校舎建築	S55.4	S56.1	S53.4	S52.2
経過年数	21 年	20 年	23 年	24 年
屋体建築	S63.1	S62.3	S60.1	S61.1
経過年数	13 年	14 年	16 年	15 年
プール建設	S50.7	S51.3	S49.11	S51.7
経過年数	26 年	25 年	27 年	25 年
プール面積	305 m ²	205 m ²	205 m ²	205 m ²

収容人数は教室面積を 1.85 m²(=74 m²÷40 人)で割って求めた。

久井町立小学校適正配置検討委員名簿

職名	所 属	役 職 名	氏 名	住 所
委員長	学識経験者		上野敏廣	羽倉
副委員長	民生児童委員	民生児童委員会長	多津見勤	坂井原
委 員	PTA 代表	久井小 PTA 会長	出店 忍 中西正純	江木 下津
”	”	羽和泉小 PTA 会長	松島弘泰	泉
”	”	中野小 PTA 会長	高木茂実	土取
”	”	坂井原小 PTA 会長	河野典規	坂井原
”	”	久井中 PTA 会長	秋保善伸	江木
”	育成会代表	久井保育所育成会長	上仲間睦郎	吉田
”	”	羽倉保育所育成会長	宗行克紀	泉
”	主任児童委員		近広詔三	江木
”	代表総代	筋原地区代表総代	佐倉貞雄	筋原
”	”	吉田地区代表総代	西谷洋司	吉田
”	”	江木地区代表総代	秋保敬幸	江木
”	”	下津地区代表総代	油藤勝之	下津
”	”	泉地区代表総代	正 輝生	泉
”	”	和草地区代表総代	宗金文一	和草
”	”	黒郷地区代表総代	大谷 満	黒郷
”	”	羽倉地区代表総代	坂本 明	羽倉
”	”	坂井原地区代表総代	小路清美	坂井原
”	”	坂井原地区代表総代	山崎義信	坂井原
”	”	中野地区代表総代	松浦良一	山中野
”	”	中野地区代表総代	渡部 久	土取
”	女性代表	女性会長	中川令子	山中野
”	”	女性会副会長	恩地春美	黒郷
”	学識経験者		大原宗徳	下津
”	学校長、所長	保育所長代表	法堂陽子	吉田
”	”	小学校長会長	竹中令子	江木
”	”	中学校長	高田昭夫	和草

委嘱期間：平成13年6月1日から町長に答申を行う日まで

久井町立小学校適正配置検討委員会要綱

(設置)

第1条 児童の減少にともなう教育環境の整備と教育上の諸問題に対処するため、久井町立小学校適正配置検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(所掌事項)

第2条 委員会は、町長の諮問に応じて、次に掲げる事項を町民アンケートの結果を尊重しながら調査、審議し、答申する。

- 1 久井町立小学校の適正規模に関する事項
- 2 久井町立小学校の適正配置に関する事項
- 3 空教室、空校舎の利用に関する事項

(組織など)

第3条 委員会の組織はつぎのとおりとする。

- 1 委員会は、委員28人以内で組織する。
- 2 委員は町長が委嘱する。
- 3 委員の任期は諮問について答申があった日に満了する。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員長及び副委員長については、つぎのとおりとする。

- 1 委員会に委員長及び副委員長各1名を置くこととし、委員の互選により定める。
- 2 委員長は、会務を総括し、委員会を代表する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長不在のときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 会議については、つぎのとおりとする。

- 1 委員会は、委員長が招集し、委員長は会議の議長となる。
- 2 委員会は、委員の半数が出席しなければ会議を開くことが出来ない。
- 3 委員長が必要と認めたときは、関係者に出席を求め、意見を聞くことが出来る。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

附則

この要綱は、平成13年5月1日から施行する。